

外国人等の散在地域における日本語指導体制の充実（1年次） ～校内外における連携のための実践と授業実践を通して～

日本語指導スーパーバイザー（J S V） 武藤隆敬 新井範子 茂木美鈴 伊藤義明 本多真美

【目的】

校内外における連携のための実践と授業実践を通して、本県の外国人児童生徒等教育の中核としての実践的な指導力や助言力を高め、外国人等の散在地域における日本語指導体制の充実に貢献する。

【内容】

- 国の動向や県教育委員会の指導方針等を踏まえ、児童生徒の実態に応じた日本語指導が実践できるよう助言する。
- 研修の成果を、多文化共生・共創を目指した本県の外国人児童生徒等教育の充実に生かす。



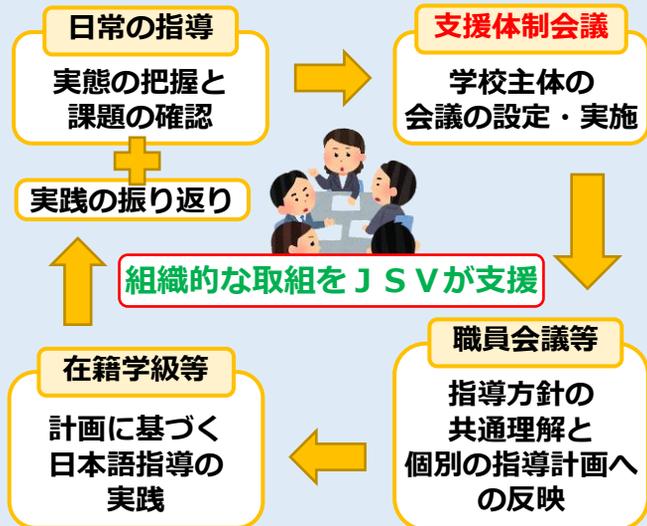
事例①「日本語指導体制づくり
はじめの一步」
(本多真美)

1. 日本語指導の基礎が学べる校内研修

- ・日本語指導とは？
- ・指導する内容と手法
- ・J S Vの役割は？



2. 支援体制会議を軸とした学校組織づくり



事例②「外国人児童生徒との
共生に向けた支援」
(茂木美鈴)

1. J S Lカリキュラムの授業実践 ～J S L 5 支援を取り入れた授業づくりを通して～ 小学校5年国語「枕草子」

- 理解支援
- 表現支援
- 記憶支援
- 自律支援
- 情意支援

秋は赤とんぼ。田んぼの上を
たくさんのなかがおどって
いるみたいにとんでいるすが
たは、とても楽しい。



2. 校内研修で講義

「在籍学級における日本語指導」

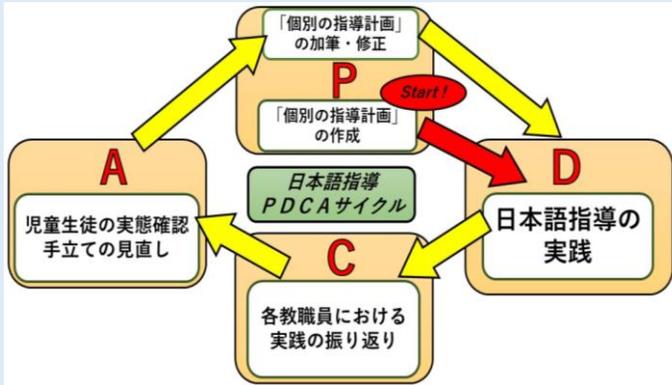
「在籍学級での外国人児童生徒の受入れ」

3. 多文化共生教育

給食のメニューに世界6か国の料理を採用
世界30か国の挨拶を校内に掲示



事例③「個別の指導計画の積極的な活用」
(伊藤義明)



個別の指導計画への赤字の加筆・修正で指導方針の周知と指導改善

「特別の教育課程」による日本語指導

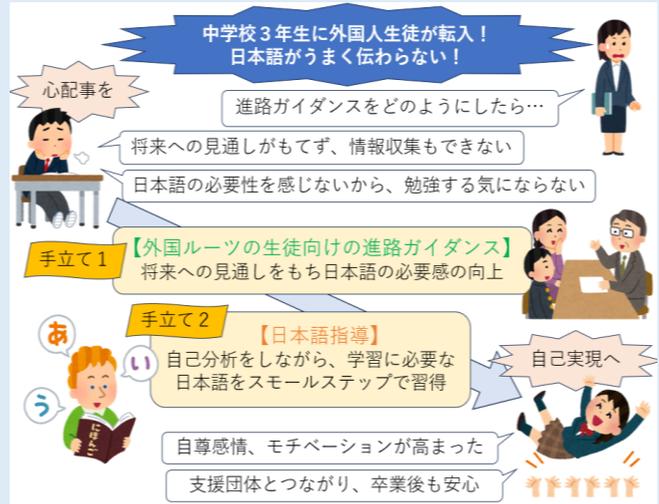
- ・1日1時間、〇〇先生による日本語指導を行う。
- ・週1時間程度、JSVに取出や入込での指導を受ける。

→学級内で友達と一緒に学びを深めたい気持ちが強いので、入込指導を基本とし、一斉授業の中で学習の様子を見ながら〇〇先生やJSVの指導を受ける。

加筆

個別の指導計画 (一部抜粋)

事例④「来日間もない外国人生徒に対する進路選択に関わる支援」
(武藤隆敬)



支援のポイント

- ・日本語の必要感をもたせる工夫
- ・支援団体とのつながりや活用
- ・学習活動を通して学び、考え、表現することで、教科に使われる日本語を習得するという視点

事例⑤「高校入試後を見据えた日本語指導」
(新井範子)

1. 高校で必要な資質・能力

- ・ 自立した生活が送れる力
- ・ 大切なことをきちんと理解できる日本語の力
- ・ 将来の目標をもち、粘り強く物事に取り組める力



2. 中学校での実践

- ・ 将来の職業を見据えた進路指導
- ・ 基本的生活習慣を身に付ける指導
- ・ 大切な連絡を理解し、自己管理できるようにする支援
- ・ 主体的に学習に取り組む態度の醸成
- ・ 生徒指導に関する家庭連絡や本人へのフォロー
- ・ 個別の指導計画を高校へ引き継ぐための工夫

JSVによる日本語指導、担任等への助言及び指導体制への支援により



【成果】

- 学校現場の日本語指導力が向上し、日本語指導体制の充実が図られた。
- 対象児童生徒が主体的に学習に向かえるようになった。

【課題】

- 日本語指導への更なる理解と普及が必要である。
- 学年間や学校間の連続性ある日本語指導の連携構築が必要である。

【提言】

校内の指導体制の充実を図り、関わる教職員全員が主体的に日本語指導に当たれるようにしましょう。